



創刊に当って



中国管区長 藤津 春久

「中国管区教化センター便り」の
 発刊にあたり、御祝い申し上げます。
 今、宗門が当面する諸問題を逐次
 述べたところで、解決することは仲
 仲間難なことと思う。未来に重点を
 おく人々と、過去に重点をおく人々
 前者は専ら社会変革し新秩序を打ち
 立てようとし、そのためには旧秩序
 をも破壊を敢てする。後者は、現在
 の社会秩序即ち旧秩序を温存しよう
 とし、そのために現実の社会悪を徹

底的に除去しようとせず、なまぬる
 い態度をとる。
 では吾々宗侶として「如何に生く
 べきか」「何を為すべきか」という
 ことについて思い煩い、現代人の在
 り方に自信を失い、信念を欠き、筋
 金の通っていない人間の様相を呈し
 甚だしい情緒的不安定感に陥るので
 ある。信念を喪失した人は、人生の
 悲願を持たぬ人であり、宗侶として
 の自覚に欠けた人間である。私もそ

の一人かもしれない。

「教化以前」という句がある。自
 己の信念に熱中出来る人になりたい。
 教化者である以上、鐘を叩くことを
 覚えて、坐ることを怠る私、お経を
 読むことを忘れず、眼蔵を読むこと
 を忘れ勝ちの私、うまく世間を渡る
 ことを覚えて、真実を求めることを
 しない私、すべては淋しいことばか
 りであります。教化者としての自覚
 に欠ける私自身、今皆様の前に文字
 を綴ることこそ、あわれな私です。

教化者である以上、教化研修の場
 を舞台にして、ありのままの姿を表
 現することの出来る工夫をしなければ
 なりません。自己の内心をもう一
 度見極める事以外、教化者としての
 責務だと反省させられています。

種々ある法要、儀式等大切だが、
 それ以前の自己の一挙手一投足が、
 大衆と共に生きる上で如何に重要な
 ことか。自信のない教化は反って、
 しない方がよいのだと思う。

一時、「一寺院一教化事業」など
 ということが叫ばれ、可成やかまし
 くいわれた事があったが、何等成果
 は見られなかったと思う。

成程、講師を招いて行う布教は、確
 かに事業かもしれないが、私共は、も
 っともっと手近な所で、「布教」と
 いうことを考えたいのである。人を

集めて行う布教、街頭に出て托鉢す
 る布教、文書伝道も布教、寺院内外
 の清掃布教、その他数多くの布教が
 あると思う。

では貴師は、何に出来るかでな
 く、何にしようと考えているのか
 自分自身の道念にきいてみる工夫が
 大切だと思います。大切という字も
 布教以前にはない句かとも思います。
 道念、道信、仏道という宗門の句が
 浮かんで来ます。

創刊に当って適切な文面でない
 かとも思いますが、私自身の問題と
 して述べさせて頂きました。
 皆々様の御活躍を祈念しつつ。

洋上セミナー

子ども禅のつどい

期日 七月二十二日(月) 〃
 七月二十四日(水)

場所 宮崎県湯布院町川南
 興禅院

講師 藤津春久先生
 宮田玄洞先生

後援 管区内宗務所

※詳しくは別紙パンフレットをこ
 らん下さい。



センター派遣布教師名簿

管区布教師

岡山 102	翁 正 順	万福寺	〒716-05 川上郡成羽町布寄 237	086645 -2568
広島 23	宮 田 玄 洞	阿弥陀寺	〒725-02 豊田郡東野町 2276	084665 -2061
山口 238	松 原 徹 心	光善寺	〒755 宇部市東区樋の口	0836 21-5465
鳥取 30	磯 江 太 禅	長通寺	〒680-01 岩美郡国府町岡益 285	0857 24-7755
島根 I 284	樋 谷 豊 隆	長久寺	〒695 江津市二宮町神村 1725-8	08555 3-1434
島根 II 3	加 藤 修 峰	洞正院	〒692 安来市安来町 1460	08542 2-2657

総合企画委員

岡山 109	大 岩 孝 純	如意輪寺	〒719-22 高梁市宇治町穴田 3393	086629 -2203
岡山 179	久 保 孝 道	長安寺	〒708 津山市西寺町 52	08682 2-6878
広島 22	渋谷 玲 祥	光禅寺	〒725-03 豊田郡大崎町大字中野 3838	084664 -2248
広島 151	雲 井 亨 拳	多聞寺	〒727 庄原市市町	08247 4-0809
山口 75	久 楽 宗 哲	祥雲寺	〒746 新南陽市大字富田 3710-1	0834 62-3922
山口 169	谷 邦 元	桂光院	〒759-14 阿武郡阿東町地福上 1713	08395 2-0321
鳥取 30	磯 江 太 禅	長通寺	〒680-01 岩美郡国府町岡益 285	0857 24-7755
鳥取 159	橘 栄 春	大祥寺	〒684 境港市渡町 1307	08594 5-0290
島根 I 295	永 見 勝 徳	妙義寺	〒698 益田市七尾町 1-40	08562 2-3126
島根 I 345	佐々木 大成	光園寺	〒699-56 鹿足郡津和野町鷺原口 1-1	08567 2-0447
島根 II 3	加 藤 修 峰	洞正院	〒692 安来市安来町 1460	08542 2-2657
島根 II 65	沢 真 教	宗泉寺	〒690 松江市寺町 161	0852 21-5967

60年度布教方針と センターの活動



統 監 長 岡 徹 宗

昭和六十年年度曹洞宗布教方針
 現下、社会は激しく変動し、科学文明は日進月歩である。しかるに精神文明は混沌し、人間喪失のみならず、家庭を崩壊し、社会不安を呈している。

いっぽう人々は宗教に生を求め、昨今とみに禅を精神文化の英智として再評価し、人心の荒廃から逃れ出て、魂の救済を求める心も切実である。

このゆえに、宗侶は只管打坐即心是仏の妙諦を自ら修め、悉く禅者となり、寺檀和合、明るい家庭づくりを通じて、互いに真の人間道にめざめ、もって社会に貢献することを、布教の方針とする。
 こうした宗門布教方針に伴う、教化センター活動の基本構想が、小田原教化部長より左の如く提示された。
 一、「坐禅を基盤とした教化をすす

める運動」を強力に推進するため、全宗門人は教化者の使命を自覚し、広く寺院を参禅道場として、寺檀一如、仏祖の慈訓に報答する。
 二、「信仰を基盤とした青少年の健全な育成」をはかるため、護持会の協力を得て、早起会青年会婦人会及び禅の集い等の教化活動を積極的に開設し、禅による人間形成をめざす。
 三、家庭仏法を確立するため、修証義の四大綱領を生活規範とし、祖先崇拜の宗教的美風を増長し、信仰を根幹とした明るい家庭を建設する。
 四、世界的課題とされている人権擁護問題については、悉有仏性のみ教えにしたがい、基本的な人権を尊重し、差別しない、させない、許さないの自覚に徹し、真の平和社会の実現に精進する。

当中国管区教化センターもこれに呼応すべく、今年二月、「一般在家

に対する坐禅指導」をテーマとした研修会を開催。管内全県下より参集された六十余名の宗侶の熱心な討議と実践活動により、多大の成果を収めたものと自負しております。
 今年度も、これに引き続き、より充実した研修会を重ね、年度末までには、一般在家、子供、婦人を中心とした参禅指導のビデオテープの製作を企画しております。

信仰を中心とした青少年の健全な育成の一助としては、七月下旬坐禅を主軸として、宗門徒弟並に一般青少年を対象とした研修会「洋上セミナー」を、九州管区教化センターの絶大なる御支援のもとに、九州地区に於て実施します。

特に、この研修会の実技指導、青少年への接触等は一切管区内青少年教化員全員にあたっていただき、青少年教化員実地研修会を兼ねあわせ、一石二鳥の効果を期しております。

また、管区教化活動の核として積極的役割を果たすため、十一月上旬鳥取県遊地集中巡回布教を立案、おいにおいに全管区を巡回伝道することを念願しております。
 管区長、管内宗務所長、管区布教師センター総合企画委員、管区内全御寺院、老宿方々の心からなる御協力御指導を懇願いたすものであります。

中国バス 中国トラベル

- 福山営業所 ☎ (0849) 24-2520 (代)
- 府中営業所 ☎ (0847) 46-3377
- 尾道営業所 ☎ (0848) 23-3355 (代)
- 三原営業所 ☎ (08486) 2-4140
- 三次営業所 ☎ (08246) 3-1105
- 東城営業所 ☎ (08477) 2-4333

教化センター 六十年年度事業計画

(昭和六十年四月一日) -
昭和六十一年三月三十一日)

一、方針

常にセンターの目的、使命を自覚し、管内に於ける布教々々活動、並びに関係資料の収集整備等及び情報伝達に専念し、これが漸新的拡充強化を期す。

二、要領

1. 管長告諭並びに本庁の示す年度布教方針を体し、これが実現に努める。

2. センター運営委員会の協議事項を尊重し、これが具体化に努める。

3. 従来の実績を踏まえ、将来を展望して諸事可能な計画に留意する。

三、事業

1. 各種会議への積極的参加

- 管区長、統監、駐在布教師連絡協議会
- 全国管区教化センター駐在布教

3. 布教資料及び情報の伝達

- センター広報の発行、配布、昭和六十年五月創刊号
- 宗務庁出版物及びその他布教資料

6. 布教師派遣に関する事項

- (1) 布教師並びに伝道車の派遣 (管区布教師、企画委員からの委嘱される布教師、センター役員)
- (2) 協議に関して
 - (イ) 教化センター運営委員会 (年一回) 昭和六十年二月十五日 島根県玉湯町
 - (ロ) 中国管区布教企画委員会 (年二回) 第一回昭和六十年五月二日、第二回未定
 - (ハ) その他

4. 料の紹介
各種布教伝道に関する事項

- 本庁、管区、宗務所、教区等主催の各行事への参加
- 青年会、婦人会等行事への援助協力
- 幼稚園、保育所、老人ホーム各種施設等への訪問
- 一般社会における研究会等への接触と参加協力
- 団地、市街地、僻地、寒村等における集中伝道による教化
- 青少年教化活動への援助協力

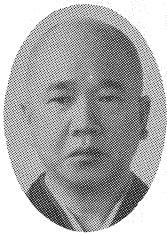
5. 研修、協議に関する事項

- (1) 研修会に関して
 - 中国管区教化研修会 研修内容 坐禅会の指導の仕方と研究座談会 (年一回 未定)
 - (2) 協議に関して
 - (イ) 教化センター運営委員会 (年一回) 昭和六十年二月十五日 島根県玉湯町
 - (ロ) 中国管区布教企画委員会 (年二回) 第一回昭和六十年五月二日、第二回未定
 - (ハ) その他

7. その他
(1) 本庁の指示による行事等の企画並びに活動
(2) その他必要関連事業の研究と活動

●お通夜とは●

死者と最後の一夜を過すのを通夜といい、昔は死者と特に親しかった人が同じ布団の中で過ごしたようです。最近では多くの人が通夜と葬式の両方に出席するようになりました。それで納棺をして祭壇をさきにするようになったようです。本来葬儀は本尊様の威徳につつまれて、成仏するのであるから、祭壇の上に仏様の掛軸等、おまつりできるように工夫することが大切です。その前でお経を誦するわけですが、これは仏さまのおさとしでありますから、その心を味い故人の面影や、思い出を追憶しながら一期一会の精神に徹し、無常の真理を確めて発心する修行の場であることを考えて、おつとめしましょう。(葬式法事の手引きより)



家庭生活をみなおそう

鳥取県岩美郡長通寺住職
管区布教師 磯江太 禪

便利で豊かな生活が出来る今の世の中、私達はものゝ豊かさに慣れすぎて感謝の心はなくなり、あたりまえになってしまっているのではないかと。生活は便利々々で体を使わない手を使わない省略主義となり、ものを大切にせず、ものを尊ぶ、ものに感謝の念がうすれてしまった様に思えます。食物は豊富で何時でも食べたいだけ好きなものが食べられ、ものに感謝の心がまったくなくなり、ものを大切にすることを、自分が大切にすることを、自分ととのえ、自分の生活態度となるのである。もの豊かさの中に家庭生活は乱れ、規律はなくなり自分中心となり、まさに現代は、家庭生活の崩壊と云われております。

人間形成の上に家庭生活、これほど大切なものではありません。子供、

親、老人、そして先祖につながる家庭の中にゆずり合い助け合い語り合う笑いのある明るい家庭生活、これなくして人としての幸福はありません。本当にしみじみと自分をみつめる心の深みが大切である。日々を人として心豊かに精一杯生きる精進が大切であります。佛壇に手を合わせるだけでは本当の信仰とは言えません。手を合わせるそのことが毎日の生活態度となり言葉となりおこないとなり人柄となる。生活の実践であります。

大いなるいるるものに支えられ今日生かされているこの命、この尊い人生を真に生きようとするところに信仰があるのであります。日々目に見えない行の積み重ねこそ、最も大切であります。



愛情の貧しさ

島根県松江市宗泉寺住職
総合企画委員 澤 真 教

最近、大人の心を痛めている問題に子供同志のいじめがあります。そのいじめも喧嘩ではなく、集団で弱い子を陰湿なやりかたでいじめて、平気で行くことです。また、その現場を目にしても、知らん振りするのが始ると云われます。何故、純真な子供時代にこんないじめが横行するのでしょうか。その原因はいろいろあるでしょう。戦後の急激な社会環境の変化、学歴競争の影響も考えられます。また、子供の遊びの喪失も挙げられるでしょう。

しかし、一番大きな原因は母と子の愛情の貧しさではないかと考えます。豊かな、便利な社会になりましたが、親も子も金中心、物中心となり、母性愛も変化して参りました。人間の成長にとって、乳幼児期の母の無条件な愛が特に不可欠ですが共働きのため保育園にあずけられた

り、或は、幼児期より有名学校への期待をかけられ、学習、成績といった母親のエゴ的な欲求が多くなってきました。競争の時代、いつしか母のやさしいまなざしも、ほぐえみも消えてしまったようです。母の豊かな、無条件の愛情のもとで育った子ほど、母親への愛情が培われ、更には、友達を愛する心情が豊かに発達するといわれます。現代の親こそ、人間の愛の育つみちすじを真剣に考えねばなりません。そして、何よりも親こそ、人を愛する豊かな人間に成長することを願わずにはおられません。親と子は共に成長するのですから。



16mm映画・オートスライド フィルムライブラリー 一覧

< 16 mm >

< オートスライド >

No.	題 名	No.	題 名	No.	題 名	No.	題 名
1	禅のいのち 一般 カラー26分	13	剣と禅 一般 カラー13分	1	大本山永平寺 一般 20分	14	石のほとけ 一般 15分
2	禅と共に 一般 カラー24分	14	曹洞宗宗務庁 一般 カラー25分	2	大本山総持寺 一般 17分	15	水子地蔵 一般 15分
3	スポーツと禅 一般 カラー24分	15	一輪の花 一般 カラー43分	3	道元禅師様 一般 12分	16	修証義の世界 一般 24分
4	禅はそこにある 一般 カラー24分	16	どうぶつ村の 子どもたち 児童 カラー20分	4	瑩山禅師様 一般 12分	17	ご法事のエチケット 一般 10分
5	禅のこころ 一般 モノクロ24分	17	キューリー夫人 児童 カラー11分	5	おしゃかさま 児童 13分	18	私達のお寺の宗旨は 一般 12分
6	禅と自然と日本人 一般 カラー25分	18	アラジンと 不思議なランプ 児童 カラー10分	6	孤雲懐奘禅師のご生涯 一般 17分	19	だれにでもできる 禅の仕方 一般 10分
7	光のなかに 一般 カラー26分	19	雪舟 児童 カラー11分	7	孤雲懐奘禅師七百回 大遠忌にむけて 一般	20	鉄条網の子供達 一般 28分
8	ともいきのよろこび 一般 カラー27分	20	一球さん この一球に悔なし 児童 カラー30分	8	明日への道を拓く 一般	21	仏壇のまつり方 一般
9	石と信仰 一般 カラー22分	21	明日の太陽 一般 カラー49分	9	曹洞宗の未来を開く 宗務庁 一般	22	管区教化センターの 素顔 一般
10	道元禅師とともに 一般 カラー25分	22	太陽の涙(石の証言) 一般 カラー49分	10	授戒 一般 30分	23	よくばりめんどり 児童 14分
11	禅の光り 一般 カラー28分	23	テレバス・クマラ 児童 カラー25分	11	お葬式のエチケット 一般 11分	24	御先祖 一般 15分
12	食(じき) 一般 カラー32分	24	永平寺に生きる 一般 カラー35分	12	仏様の履歴書 一般 16分	25	法とは人なり 一般
				13	あなたの力で 曹洞宗の明日を 一般 16分		

尚、詳しい内容等は、教化センター発行の「利用の手引」、視聴覚教材の内容一覧と布教機器の参照又は(電話可)御一報下さい。



株式会社 佛光堂

主な営業品目

梅花流法具全国指定販売店
曹洞宗仏具・金欄・法衣・稚児貸
衣裳・慶弔花環・曹洞宗在家用仏壇
仏具の製造販売
寺院本堂・山門・鐘楼・庫裡
位牌堂兼納骨堂の設計施工
墓石の販売据付

本社 〒747 山口県防府市栄町二丁目2-47 TEL (0835) 23-7755 (代)
支店 県内=防府天神町・防府上天神町・山口・宇部・徳山総本店・徳山西・
鹿野・美祢・下関・萩・光 (11支店)
県外=大分...〔大分市中央町三丁目103 TEL (0975) 38-0002〕

総授戒運動レポート



総授戒運動を回顧して

広島県豊田郡阿弥陀寺住職
管区布教師 宮田 玄 洞

教化センター主監在任中の五年間は、宗務庁の施政方針であった総授戒運動が展開されました。教化センターではこの実情に連動呼応して、研修資料として、授戒会のしおりを発刊、続いて総授戒運動に伴う研修会、戒会が次のように実施されました。

昭和五十四年末、広島松寿寺において授戒会法式研修会、五十五年十一月二十九日～十二月一日、広島香積寺研修会、五十六年、島根松源寺研修会、五十七年四月、広島円林寺授戒会、八月二十八日～三十日、島根宝泉寺研修会、十月七日～八日、広島天寧寺研修会、十月、広島善昌寺(三原)法脈会、五十八年三月十八日～十九日、広島天寧寺研修会、五月、広島香積寺授戒会、六月二十四日～二十五日、広島善昌寺(上下)研修会、十一月五日～六日、島根弘安寺研修会、十一月七日～九日、広

島宗光寺研修会、十一月二十六日～二十七日、岡山威徳寺研修会、五十九年三月八日～十日広島善昌寺(上下)授戒会等、こうした日鑑に記した行事を振り返り、管区主催の授戒会、その他啓建された戒会に随喜して「佛種は縁より起る」という妙経にお示しの余韻を、有難くかみしめております。地方によっては研修の積み重ね、授戒会の見直しによって晋山結制に授戒会、法脈会、因脈会いづれかを付けて、授戒作法を修行することが習慣化し定着しつつあります。

お釈迦さまは「戒は正しき佛性に順ずる故に解脱成佛の根本なり」とご遺言なさっております。授戒会が修行できれば僧俗一体の加行で法縁は深まり、本来の佛心に目覚めて、これを育ててゆくしあわせを感じせしめることができ、檀信徒の教化という点から最尊最上のものであるこ

とは、過去において実証されている通りであります。禅戒一如の立場から磨祖の「戒とは伝なり伝とは覚なり、即ち佛心を悟るを真の授戒と名づく」とのお示しを体し、運動は終ってもこの認識を深め保ち続ける努力が大切だと痛感いたしております。

中国管区教化研修会報告

- 一、期日 昭和六十年二月二十五日から二十六日まで二日間
- 一、会場 尾道市天寧寺
- 一、参加者 六十二名
- 一、内容及び講師 京都龍宝寺住職 中野東禅老師



啓文社

- 尾道店 尾道市久保1丁6番1号 (0848)37-5151
- ニチイ店 尾道市天満町ニチイ内 (0848)37-5151
- 福山店 福山市笠岡町1の7 (0849)22-3111
- 奈良津店 福山市奈良津町74-2 (0849)25-0050
- 旭ヶ丘店 福山市引野町旭ヶ丘 (0849)43-2564
- 三原店 三原市城町9～19 (08486)4-7951
- 因島店 因島市土生町宇和部 (08452)2-0274
- 倉敷店 倉敷市老松町5-570 (0864)26-0720
- 廿日市店 佐伯郡廿日市町佐方本町7-1 (0829)31-0772
- 広島店 広島市東観音町15-12 (082)232-9185



品質を大切にす技術の日立

Hi-Fi機能美ファインスタイルがビタリ!



VT-86
¥188,000
(ワイヤレスリモコン付)

※お問い合わせ、御用命は下記へどうぞ

ミウラ電器
〒720 福山市草戸町大道1121-5
TEL 0849-21-3599

【管区内ニュース】

◆岡山宗務所

岡山県真庭郡勝山町の曹洞宗化生寺には殺生石と玉雲宮がまつられていたが、秋の大祭には御神輿がかつぎ出され、その行列の前を神官ならぬ僧侶が先導するのである。

この祭りのように僧侶が参画し、庶民と一体となった行事は一般のまつりの雰囲気には乏しい寺院の祭礼の中にあたって一味違ったムードをかもし出している。

久保孝道

◆広島宗務所

青年会有志は、三年前より年四回一泊二日の坐禅の会を続けています。会場はお互いの都合により、それぞれの寺を持ち回りとし、平日友引の日を選び前日薬石前に上山、二炷坐り九時開枕、翌日は五時振鈴、一日坐って薬石罷解散。現在十名余り時に島根県、鳥取県より随喜もありません。この会が二、三会場とふえて年一回は全県下結集の会へと願っています。

◆山口宗務所

宗門総授戒運動締めくくりの年をうけて、五月十四日、大本山永平寺貫首、丹羽康芳貌下を戒師に拝請し

雲井亨拳

禅昌寺(町田宗夫住職、山口市小鯖)を会場に、大授戒会を厳修した。戒弟三二九名、寺族得度二〇名。

文字通りの随喜寺院、寺族、戒弟和合乳水、仏天の加護の下、全くの無魔円成、僧俗共に法悦に浸った。

谷 邦元

◆鳥根第I宗務所

五月十八日(土)、第五教区では、大正時代より続けられている耕道会(会員二十名)の研修会が親睦を兼ねて西福寺で行なわれた。

研修内容は、近づく施餓鬼会に合わせ基本動作の再検討であったが、終わった後の座談会では活発な意見が飛び交い有意義な研修会であった。

益田市仏教会(小川昭道会長 五十四ヶ寺)の講演会が八月三十日、県民会館で開かれる。講師は寺内大吉氏。

永見勝徳

◆島根第II宗務所

昭和五十六年四月十六日に発会された「両山会」は、従来の永平寺祖門会員と総持寺嶽山会員を総称し両大本山との連絡を密にして両大本山に対する愛山護法の道念を具現し、もって宗風を挙揚して祖恩に報答し、あわせて会員相互の親和提携をはかることを目的とし、会長田中一弘師(松江市浄心寺住職)のもとに会員

八六名が集い種々の行事が行われている。

加藤修峰

◆鳥取宗務所

毎年宗務所、宗務所護持会の共催で両大本山参拝を実施しています。年を追うごとに参加者も増加し、一般の信仰もたかまり多大の成果をあげている。

今年はや、管区内センターの当県僻地集中伝道も企画され、伝道車による効果を期待している。

橘 栄春

■禅に親しむ会

この会は、昭和五十四年、布教化の一助として、広島県第五教区が中心となって発足、当初「禅の文化を聞く会」の名称だったが故、秦慧玉永平寺貫首貌下をお招きした際、禅とは聞くものではなく、親しむものであるとの注意をうけ現在の会名に改めたものである。

年間三〜四回を目標に、中央から著名人を招き講演会を開いている。今日まで、秦禅師をはじめ、遠藤実氏、嵯崎一光老師、木崎浩哉老師、青山俊董尼老師などを招き十八回を教え、第三、四、五、六教区の僧俗の方々の物心両面の多大の援助のもとに盛会をきわめている。



★次の出版物の取扱いをしておりますので、ご用命下さい。

- (1) 宗務所発行「禅の風」一〜四
- 一、二は千円、三、四は千二百円
- (2) 東海管区教化センター発行「おりの法話」一〜四、千五百円
- (3) 北信越管区教化センター発行「心のノート」一〜四 一三〇円
- (4) 近畿管区教化センター発行「ふれあいを求めて」 八百円
- (5) 宮城県第十二教区青年会「差定帳」 千円
- (6) 中国管区教化センター発行「授戒会のおしおり」 千円
- 「葬式法事の手引き」 一五〇円



▼毎年「センターだより」を皆様にお届けする予定です。御意見、御希望をお寄せ下されば幸いです。あなたの身近なニュースを御紹介下さい。おたよりお待ちしています。

創刊号 昭和60年6月1日
編集発行所

曹洞宗中国管区教化センター
尾道市東土堂町十七〜二九

電話 ○八四八一二五〜二八五五
天寧寺内